

天草情話

あの唄の意味が……わかつた
おなげねに今迄なあ夢と譯
て……なあ、死んだあつま
るやう新さん、どんな辛い事でも
まんするけん……」
「…………いけねむ……」
「どうして?……あ、やつぱ
りになつて戻つて來たとよ」
「そらあほんとかい!」
彼女は新しい涙に岩に打伏せ
泣いた。新吉は手を組んだまゝ
着物の裾を潮風にあはらせて
体くうな垂れてゐた。

天草情話

「どうしたッ……」
一二枚の汚れ布團に四方から足を入れて豚のやうに貪り食ひ始めた五六人の若者が一齊にぐり頭をもだげた。
「お美代が殺されただよツ」「な、何だと……」
彼等は言ひ合した様に立つた。
「何だ、朝つぱらから騒ぎつてありあしない、静かにし眠たいのになあ……」
新吉は起きもせずに怒り聲だ。
「だれかい、それは?」
飛び込んで來た男が尋ねた。
「辯護士の新公だよ!」
「何だ辯護士も來てるたの?」
「おい倅太、朝つぱらから来んよ。やつてゐるんだい!」
「がんく」とは何だ、お前の
れ昔のコレが殺されたちうだよツ……」
と飾くれの小指を出した。
「ね?……」
彼も起き上つた。

りお美代が新吉と別れてカブリの女給をしてゐるとか、吉で女郎をしてゐるとか風のやな噂が誰からともなく傳へるのであつたが、それから五年も経つた今頃突然生臭い彼女郷士である漁村に姿を現しかつた。

日本にかへつてから
通選議代議士戦と二度目
員戦（昨年六月の福岡県、
一昨年の神奈川県）、吉
舉二回（昨年二月の東

選舉の らをもて

中老の小説が熱心に猛烈な拍判る。口だつたと久氏の立政友會の員長としも選舉區らす、一

し麻生氏は十一階の無政
くり合計三百一十四回の黨
聞いたにも拘らず負け
第一回に五圓づゝ、そ
の十九日夜は七圓づゝ、そ
票あたり十二圓の現ナ
まいたと云はれ、それ
たのだつた。
政ともに「無産派の演
くだけはきなさい、
ら今現に政権をもつて得
投票せよ」と逆宣傳を
れに買収による義理が
五年や十年は實現の機
直な有権者を弔つたも
は併し失望しない、年
四五才の新有権者がふ
し、教育の普及や新聞
等で徐々に大衆の眼が
くので闇へば闇ふほど
は高率に累進してゆく
の合同も今一息だ、氣
素裸でなくしてはならな
喋々するもの

賣商人や半白の小作人
傾聽し、要所要所では
手を送つてゐたのでも
にかつて手で負けたの
いへば大衆黨主、麻生
つた朽木縣第一區での
森格氏の如きは選舉委
て本部に頑張り、一度
へはかつて來ないに拘
万六千何票と云ふ最高
運は

はたしかに大きき動いてゐる
イ・二つ位とはなるであ
る。つまり、ナマスルイ社会
黨が、ブルジョア第三黨と
脱離するものと、一步前で
るものとに別れ、労農黨中の
分子が更に清算され、右
翼の新二大無産黨が結
れるであらう。

○○○○達
説教壇の一本調子な
相互勸説とを完全な
庸の社會の
美麗美句を書きつら
人格と買ふ世紀末的
反し民衆よ
君達はそれでよいの
擴がつてゐる背信
言葉の裏にかくれな
すべて同じだ
信頼の悔を見る
君達よ
それでいいのか?
赤兒はまるで乾し太
老人はカマキリの様
そして君達はモウ
出來ない程に
おゝ
すべて一度失はれし
達の内に歸らねば
來てゐるのだ
あらゆる一切の即ち
あらゆる一切の偽善
あるぶらつき現實
民衆よ立ち上れ
全世界のうしろに燃
の君達の「本質」はい
焼きつくす宇宙の熱
震い出せ。あらなき
・安價は喊声と凱歌は
くれてやれ
人生の悲劇的な諸事
百姓よ土方よ大工よ
見よ神祇せよ踏みみ
嗤笑の金糞は偽善の
所有權
はつきりと自覺せよ
大地の上に季節の偉
はオヨリヨウリコ
渡る喇叭の音 翼の
響き 空中高く鳴
歌ふ無數の声々のひ
時々龐大な拱形を構
世界は唯のものでま
はつきりと自覺せよ
骨と皮でもよいひ
るしながら平和と自
めに水平線上に立ち
見る
終日恍惚として大地
い手 群々 貧慾 ない 強大 情的 戰慄 出し 兄を ひと へり 部落 暗き ても 判断 こん 民人

る
めら
民吉昌
とし
君の生涯に於けるた
の勞働をすこし爲な
なくて經濟を語り
キツツ手袋をはめ
吸をする香水の群々
君達を救つてくれる
らかな顔の貴人 摂
美な絶舌で永遠の骨牌

な物云ひと
な俗吳と凡
的教育者
の靈魂は
現実の〇〇に
あらゆる饒舌
先ず大砲を反
民衆よ
時は來た
君自身を匿す
讀かしめる隙
の如く
起き上れる民
の靈魂は
現実の〇〇に
立て
一切をすて
整理されたる
かけ出していく
もう一度君自
トツPはすで
民衆よ
一人取りのこ
魂の叫びを開
水準線へ――
前線へ――
(長詩
一九三
火
はやつ等に
普の腐敗せ
貞を見ろ
燃ゆる不滅
いつまでも
然ものは君
ならぬ時が
様にそして
○○さんも
大根の様に
様にそして
地のうへを

と金を満
大道を潤
歩るき 欽喜
りから眼覺め
美しい素朴な
昭らし下す月
大地の上を走
おゝ自然われ
人はさとられ
達に向つて
天は君達の肉
ア、強大な流
音をけずる
の声
と云ふ滑
愛的な甘
包んだ

杉本芳之助 エジエニア ト士商具家材木 吉龜村山	京東ザーカ 街ガントルウ市スリボナンベ	Y. Shimizu Cirurgião Dentista	Hotel Yamamoto	Casa Hirata Caixa, 47 Tel. 81 Promissão	Casa Shirota e HOTEL	HOTEL CENTRAL S. Ishigami	HOTEL Estação
-----------------------------------	------------------------	----------------------------------	-------------------	---	-------------------------	------------------------------	------------------

の海のなかの眠
よ
海の波浪の跳躍
見る日がさしい風
は山日太陽は一
取り残された君
體をびつたりと
れの如きアマゾ

日本郵船會社
特約乗船切

日付
符取次所
旅館
前驛
ウルバ

